

事後評価報告書(国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID))

1. 研究・調査課題名:「2011 年東北地方太平洋沖地震津波の伝播・沿岸挙動と海岸施設の防災効果に関する研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 東京大学 大学院工学系研究科 教授 佐藤 慎司

2-2. アメリカ側研究代表者: ジョージア工科大学 土木環境工学部 准教授 Fritz Hermann

3. 総合評価:研究・調査の目標及び実施環境にてらして、優れた成果が得られている

4. 事後評価結果

(1)研究・調査成果の評価について

本研究では、速やかな現地津波痕跡調査が実施され、津波に関する有益なデータが取得できている。また、海岸堤防の破壊機構の解明、広域から狭域までのシームレス津波解析技術の開発など、具体的な研究の進展が明確である。津波被害の記録に基づく人命を守るための提言などについても言及があればさらに良かった。

(2)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究は以下の点で評価できる。1)研究成果の公表が活発になされており、高いレベルの論文集への投稿も多い。2)日米の連携もうまく推進されており、連名での研究成果の公表として結実している。3)2段階津波レベルの設定において基礎資料を提供したことや、被災地復興計画策定に対して津波浸水域情報を提供している。

(3)総合評価コメント

研究・調査終了報告書にもあるように、本プロジェクトは「計画以上の成果があった」と判断できる。日米連携の元、現地調査、データ分析、論文執筆等が積極的になされており、高く評価できる。今後はこれらの成果を総合して、国内外の津波防災に役立てて頂きたい。